

救命救急センター

1. スタッフ構成(2025年3月時点)

- 馬越 健介(救命救急センター長、災害医療センター長)
- 山田 忠克(循環器内科部長、救命救急センター副センター長、循環器病センター副センター長)
- 椿 崇仁(整形外科主任部長、救命救急センター副センター長、リハビリテーション部長、リハビリテーション科主任部長、地域医療連携室副室長)
- 八木 草彦(消化器外科主任部長、救命救急センター副センター長、消化器病センター副センター長、災害医療部長)
- 井上 考司(呼吸器内科主任部長、救命救急センター副センター長、がん治療センター副センター長、感染制御部長、がんゲノム室長補佐)
- 藤原 聡(脳神経外科主任部長、救命救急センター副センター長、脳卒中センター副センター長)

2. 運営方針

高度救命救急センターの対象となる、意識障害、ショック、心肺停止、多発外傷、重症熱傷、急性中毒、四肢切断、脳血管障害、虚血性心疾患や不整脈、呼吸不全、急性腹症や代謝性疾患等のあらゆる病態の重症救急疾患に対応できる体制を取っています。

(1) 救命救急センター

① 理念と基本方針

<理念>

県民が安心を得られる安全で良質な救急医療を提供します。

<基本方針>

- ・ すべての重篤な救急患者を24時間体制で受け入れます。
- ・ 県内の医療機関と連携を密にし、継続性のある医療を行います。
- ・ 安全性を確保し、高度で専門的なチーム医療を行います。
- ・ 臨床研究や医療教育を通じて、人間性豊かな質の高い医療従事者を育成します。
- ・ 災害時には、災害基幹拠点病院としての責務を果たします。

② 愛媛県ドクターヘリ

2017年2月1日より愛媛県ドクターヘリの運航が開始され、当院は基地病院となりました。愛媛県全域を対象に、医師と看護師がヘリコプターに搭乗して現場に向かい、早期に救命処置等を実施することにより救命率の向上を目指します。ドクターヘリは重症救急患者の病院間の転院搬送にも使用することができ、搬送時間の短縮による患者さんの負担軽減だけでなく、地域医療資源の負担軽減にもつながります。隣県ドクターヘリと協定を結び、隣接エリアや重複要請時には互いに協力することとしています。また、愛媛県消防防災ヘリとも連携しています。

③ 救急ワークステーション

2015年10月より病院前救急体制として松山市消防局と連携した常駐型救急ワークステーション方式を取っています。この救急ワークステーション方式により、一刻を争う重症患者には医師が救急車に同乗し、出動できるようになりました。救急隊との密な連携と早期の医療開始により救命率の向上を目指します。

④ 教育・指導活動

中予地域メディカルコントロール(MC)協議会のMC担当医療機関として、救急救命士や消防職員に卒前・卒後教育や生涯教育を提供しています。救急ワークステーションを活用し、消防と医療機

関の一層連携したお互いの教育も可能となりました。また、実際の救急活動では必要に応じて適切な指示ならびに指導、助言を行っています。救急隊活動の事後検証も行い、病院前救護の質の向上に努めています。

(2) 病院群輪番制の後方支援(2016年4月から)

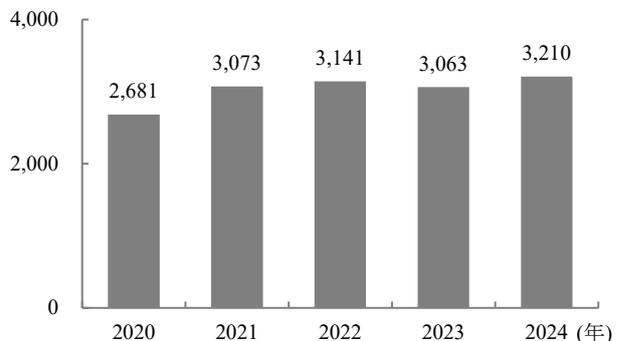
松山医療圏では、14病院が輪番方式によって二次救急医療を行っています。当院は30年以上松山医療圏の病院群輪番制参加病院として救急医療の一端を担ってきましたが、2016年4月より輪番病院という立場を離れ、重症患者に限らず二次輪番病院あるいは一般クリニックでは対応できない患者さんを積極的に受け入れる体制を取っています。松山医療圏における中核病院としての責務を果たしていきます。

3. 実績

当センターは、松山医療圏のみならず愛媛県内の重症救急患者の「最後の砦」として1981年に設立されました。2013年5月には多発外傷や心筋梗塞、脳血管障害等の重篤患者を診療するという救命救急センターの使命に加えて、広範囲熱傷、指肢切断、急性薬物中毒等の特殊疾患を専門的に治療する高度救命救急センターに認定され、年間約3,200名の救急患者を24時間体制で受け入れています。当センターは初療室4床、救命センター専用病床30床(救命ICU10床、HCU20床)、屋上ヘリポート等を設置し、全診療科の協力のもとあらゆる病態の救急患者に対応できる体制を取っています。

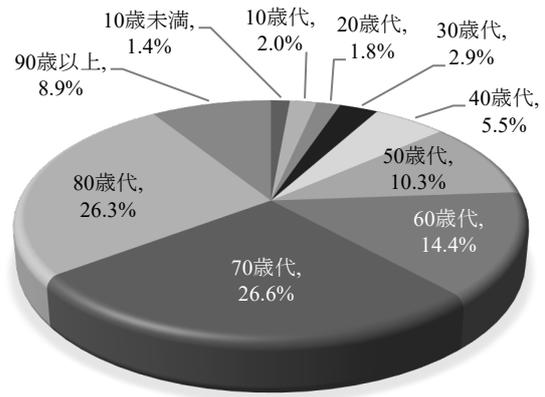
■ 患者数

(人)



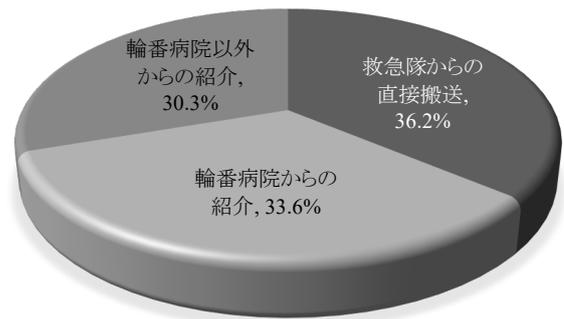
■ 年代

	症例数
10歳未満	45
10歳代	64
20歳代	57
30歳代	92
40歳代	176
50歳代	331
60歳代	462
70歳代	853
80歳代	843
90歳以上	287
合計	3,210



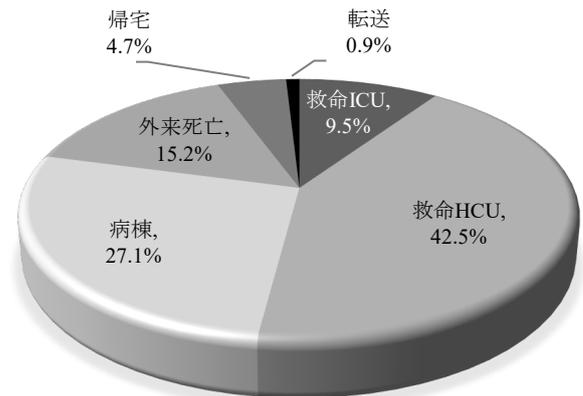
■ 来院方法

	症例数
救急隊からの直接搬送	1,161
輪番病院からの紹介	1,077
輪番病院以外からの紹介	972
合計	3,210



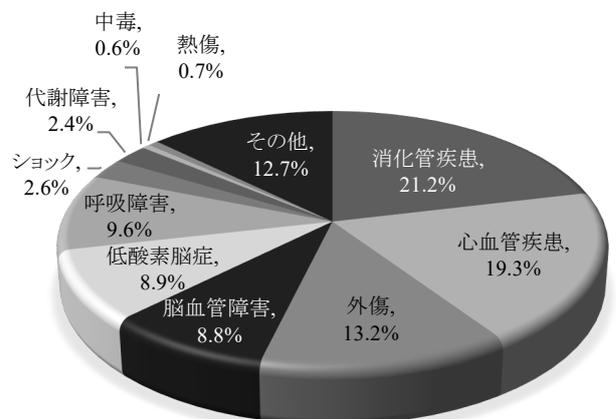
■ 措置

	症例数
救命ICU	306
救命HCU	1,365
病棟	871
外来死亡	489
帰宅	150
転送	29
合計	3,210



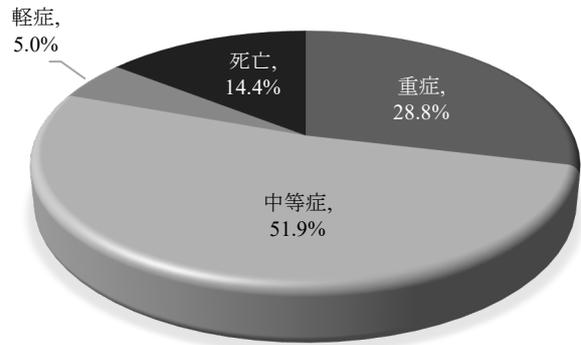
■ 傷病分類

	症例数
消化管疾患	682
心血管疾患	620
外傷	424
脳血管障害	282
低酸素脳症	286
呼吸障害	309
ショック	82
代謝障害	77
中毒	18
熱傷	22
その他	408
合計	3,210



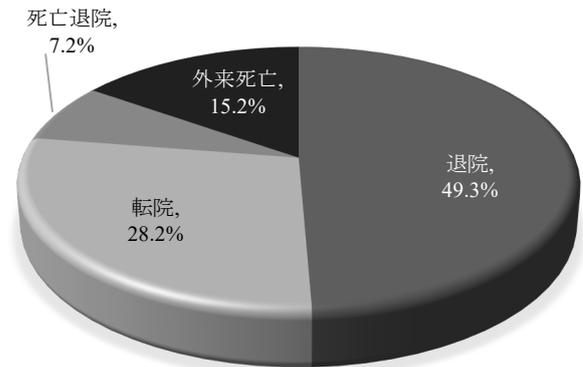
■ 重症度

	症例数
重症	923
中等症	1,665
軽症	161
死亡	461
合計	3,210



■ 転帰

	症例数
退院	1,583
転院	904
死亡退院	232
外来死亡	489
合計	3,208



※入院中等、合計数が合わない場合があります

■ 愛媛県ドクターヘリ運用件数

	要請件数	出動件数	出動件数内訳				未出動件数	未出動件数内訳					診療人数	受入先別		不搬送
			現場救急	施設間搬送	出動後キャンセル	待機時間外		天候不良	重複要請	出動前キャンセル	その他	基地病院		左記以外		
1月	27	26	13	13		1					1	26	13	13		
2月	21	17	10	7		4		1	2	1		17	10	7		
3月	23	16	6	8	2	7		1	2	4		14	9	5		
4月	30	25	16	9		5		2	1	2		26	12	14		
5月	32	29	14	15		3		2		1		29	14	15		
6月	25	22	7	11	4	3		3				18	7	11		
7月	35	27	14	13		8	1	3	3	1		27	14	12	1	
8月	40	35	13	20	2	5		2	2	1		33	16	17		
9月	40	38	17	18	3	2		2				35	15	20		
10月	30	22	7	13	2	8		4	1	2	1	20	9	11		
11月	41	31	20	9	2	10			5	3	2	29	13	15	1	
12月	34	28	8	15	5	6		4		2		23	13	10		
合計	378	316	145	151	20	62	1	24	16	17	4	297	145	150	2	

※複数搬送等により合計数が合わない場合があります

救急ワークステーションの医師同乗出動件数は33件でした。

- (1) 病院群輪番制の後方支援
 - ・ 二次輪番病院からの紹介:1,077名
 - ・ 二次輪番病院以外からの紹介:972名
- (2) 愛媛県ドクターヘリ
 - ・ 事例検討による効果的運航の推進
 - ・ 東予、中予、南予地域での症例検討会の開催
 - ・ 重複要請における消防防災ヘリコプターの応援体制
 - ・ 協定を活用した隣県ヘリコプターの効果的運用
- (3) 救急ワークステーションと連携した相互教育
 - ・ 中予地域メディカルコントロール体制の充実

4. 2025年度目標

- (1) 愛媛県全域における救急医療体制の充実
 - ・ 病診・病病連携を推進し、地域包括ケアシステムを見据えた救急体制の構築
 - ・ 愛媛県ドクターヘリを活用した全県的な連携